

ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法部門
COVID-19 に対する理学療法関連情報

《産前産後理学療法に関する海外情報 Vol. 5》

【日本語タイトル】

産前産後を対象とした新型コロナウイルス感染に対する国際産科婦人科超音波学会 (ISUOG) 臨時ガイダンス：医療従事者への情報

【オリジナルタイトル】

ISUOG Interim Guidance on 2019 novel coronavirus infection during pregnancy and puerperium: information for healthcare professionals

【着目ポイント！】

1. 病院やクリニックを受診するすべての妊娠女性は、TOCC 情報；渡航歴 (travel) , 職業 (occupation) , 防護具非着用での COVID-19 罹患者との接触 (contact) , クラスター環境での滞在 (cluster) を基準に、症状や感染リスク因子の評価が必要である。
2. TOCC 評価により COVID-19 罹患リスクの可能性があると判断された妊娠女性や、軽症、または無症候性の COVID-19 罹患妊娠女性の場合、所定の妊婦健診や超音波検査は 14 日間遅らせる必要がある。

【要約】

本ガイダンスは、国際産科婦人科超音波学会 (ISUOG) より臨時発刊されたものである。母体の COVID-19 罹患による胎児や新生児への潜在的影響を考慮すると、妊娠女性は特に注意深く対応されるべきであり、その予防、診断、治療方法について述べている。主に、産科婦人科医を対象として提言されているが、上記【着目ポイント！】に加え、以下のとおり報告されている。

・ COVID-19 罹患妊娠女性は、胸部画像診断、特に CT スキャンによる臨床症状の評価が必須である。放射線被曝による胎児への影響とその指標については、American College of Radiology and American College of Obstetricians and Gynecologists を参照する。

・ 肺炎の重症化は、妊産婦死亡率と周産期死亡率に関連することから、胸部理学療法を含む積極的治療が必要である。治療の際には、ICU での隔離陰圧室管理とし、左側臥位での治療が望ましい。

・ 現時点では、妊娠初期～中期での COVID-19 罹患が、胎児の胎児奇形のリスクになるという報告はない。

調査者

横井 悠加 (城西国際大学)

情報刊行日 / 情報調査日

2020 年 5 月 / 2020 年 5 月 31 日

情報のカテゴリ

産前産後、医療従事者向け

情報の発信国 / 組織

国際 / ISUOG (International Society of Ultrasound in Obstetrics & Gynecology)

URL

<https://www.researchgate.net/publication/339853138>

DOI

10.1002/uog.22013